

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○2月9日～

先週の為替相場は日本の衆議院選挙で自民圧勝との報道もあり、円安が進みました。

ドル/円は1月終わりの152円を底に反転上昇し、157円台まで戻しています。

ただし、その他のマーケットは大混乱の動きとなっています。

1月末から貴金属市場に異変が起こっていますがビットコインも先週急落し、昨年10月の高値から半値になるなど大きく下げています。

貴金属市場では先物取引と現物取引で価格差が大きくなり、現物が不足するなど混乱も起きています。仮想通貨は下げ出したら止まるまでどこが底かわかりにくく、リスク回避の動きが続けば下げが加速する可能性もあります。

日本は円安・日本株高のため比較的落ち着いた動きに見えますが米国株もナスダックなどが下げてきているため株も近いうちに調整入りとなるかもしれません。

為替相場は日米が協調介入に動く可能性もあるためドル/円が160円に近づくと上値が重くなってきそうです。日経平均が衆議院選挙後に天井をつけて下げてくれば円高に流れが変わってくるかもしれません。

夜間の日経平均先物は5万6500円あたりまで急騰して終わっています。

さらに、NYダウが史上最高値更新となり、初めて5万ドルを突破しました。

1日の上昇としてはかなり大きく、週明けの株価の動きにも注目したいです。

6日にオマーンで行われた米国とイランの「イラン核開発に関する協議」が今後も継続されるというニュースが市場に安心感を与えたこともあり、NY時間はリスクオンの動きが加速しました。

ただし、イランと米国の関係は今後悪化する可能性もあり、中東関連のニュースからは目が離せません。中東の地政学リスクが高まると原油が上昇してくる可能性があり、インフレ(物価高)が加速すればマーケットにも大きな影響が出ます。

最近の相場はかなり明暗が分かれており、貴金属市場や仮想通貨、ナスダックなどは崩れていますが日経平均やNYダウは史上最高値更新となっています。

マーケットが不安定になっているため1日の値幅が大きく、急騰や急落を繰り返すような乱高下のリスクも高まっています。

為替市場は他の市場に比べて落ち着いた動きとなっていますがニュース次第で大きく動くリスクはあるため注意したいです。

今週は、政府機関閉鎖の影響で発表が遅れていた雇用統計と消費者物価指数が米国で発表されます。雇用統計は11日、消費者物価指数は13日の発表です。

週明けは日本の衆議院選の結果で大きく動く可能性があり、11日は日本は祝日ですが雇用統計の発表もあるため慎重にトレードしていきたいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週は週明けから円安が進み、157円台前半でマーケットは終わっています。
157.5円を超えてくると158円台後半あたりまでは上昇する可能性があります。
159円あたりでは上値が重くなってきそうなので、高値買いは避けたいです。
下値は155円台後半を維持できれば堅調な動きが続きそうです。
154.5円を割り込んでくると再び円高リスクが高まるため、152円をトライする動きに注意したいです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は上昇しているペアが多く、ドル/円上昇の流れが追い風になっています。
スイスフランは1月後半に200円を超えて、さらに上昇しています。
先週利上げた豪ドルも110円を超える動きとなっています。
NYダウなどが高値更新しているためリスクオンの流れが続く可能性もありますが多少の調整が入り、下げてくることも想定し、買う場合はしっかりタイミングを見てから買いたいです。
週足で陽線が続いているペアは上昇トレンドなので、日足で下がってくれば買いのチャンスになりそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では12月貿易収支などがあります。
米国では、10-12月期四半期雇用コスト指数、12月小売売上高、1月雇用統計、1月月次財政収支、前週分新規失業保険申請件数、1月中古住宅販売件数、1月消費者物価指数などの発表があります。
欧州では、ユーロ圏で10-12月期GDP(改定値)などがあります。
ほかには、英国で10-12月期GDP、12月GDPの発表などがあります。